

平成28年度 京都府立城南菱創高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営計画）	前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点（短期経営計画）
1 普通科と専門学科を併置した単位制高校として、斬新かつ先進的な教育を創造する。 2 教育理念（自主創造、真理探究、社会貢献）に基づき、学校目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を具現化し、『存在感ある学校』へと変容を遂げる。 3 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに邁進する。	再編開校から7年、城南菱創の良き「校風」と「伝統」の基礎が完成した。 ※学校評価アンケートでは90%以上の生徒が高校生活に充実感・満足感を感じている。 次の3つを重点課題とする。 1 教職員の教育力の向上 2 学校の特色化の充実 3 広報活動の充実	1 斬新かつ先進的な『単位制教育』を推進する。 ※学校の特色化を推進する取組をさらに充実・発展させ、他都道府県からの視察に値するような魅力ある教育活動を推進する。 2 学科・企画推進部を中心として丁寧な広報活動を行い、中学校、中3生・保護者等に役立つ情報を提供する。 3 2年後の進路実績の数値目標（国公立大＋難関私大：140名）の達成に向けて指導する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	機能的な組織・運営の在り方の追求	① 生徒、保護者アンケートや学校評議員からの御意見等、外部評価の結果を分析して課題等を明確にし、分掌間の連携と教職員の共通理解のもと解決に努める。	B	B	B 学校運営についての共通理解が深まり、分掌間のスムーズな連携の下、機能的な学校運営を行うことができた。
		② 部長会議をはじめ、分掌会議や教科主任会議でしっかり検討、調整し、全教職員が共通理解できるよう努める。	A	A	
		③ 各分掌・教科及び各個人が、学校経営計画を踏まえた目標を設定し、組織的に教育活動に取り組む。	B	B	
教科指導	教科指導力の向上	④ 学力向上は勿論のこと、多様な学習ニーズや興味関心に対応できるよう、教科指導力を向上させる。	A	A	A スカラー教室や学習スペースを利用して自発的に学習する生徒が増えた。 学力の定着を検証するために実力テスト等の事後指導や結果分析を行い、教科指導力の向上や授業改善に引き続き努める。
		⑤ 教科の特性を生かし、学校の特色化の推進に貢献できる取組をさらに充実・発展させる。	B		
		⑥ 積極的に授業参観、情報交換を行うことにより指導方法を工夫、改善し、質の高い教科指導を目指す。	A		
		⑦ 府立高校実力テストや実力テストの分析を行い、学力の定着度を適宜検証する ※国、社、数、理、英	A		
	学習力の育成	⑧ 生徒自身がしっかりと時間管理をし、目標達成に向けて自発的・自律的な学習ができるよう指導する。	A	A	家庭学習の在り方についても引き続き検討する必要がある。
⑨ 生徒の学習面での課題を的確に把握し、適宜課題等を与えることによって興味・関心を引き出すとともに、知的好奇心を満足させるようきめ細かな指導・助言を行う。		A			

生徒指導	生活・学習規律の確保	⑩ 規範意識を高め、生徒自らが規律ある学校生活、安心・安全な学校生活を送れるよう指導する。 特に、薬物乱用、情報機器の正しい使い方や個人情報の保護については、継続的に指導を行う。 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことにより、社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導に努める。	B	B	B	保護者との連携の下、きめ細かく生徒指導が行えた。 規範意識の高い生徒が多く、規律ある生活を送れているが、品格ある社会人の育成に向け、より質の高い指導に努める。 担任、教科担当を中心に、生徒の小さな変化を見逃さない気配りができた。
		⑪ 頭髪や制服の着こなし等の身だしなみ、挨拶や言葉遣い等については、教職員が率先垂範することにより生徒にその大切さを理解させる。	B			
		⑫ 日々、生徒の小さな変化を見逃さないよう気を配り、迅速に対応できる体制を作る。特に配慮が必要な生徒については、情報を教職員が共有し、理解を深めた上で指導する。	A			
	保護者との連携	⑬ 各種通信や面談等により保護者との相互理解を促進する。 特に課題を有する生徒については、共通認識を持って取り組む。	B	B	対処すべき事象に対しては、迅速に対応ができた。	
特別活動	学習と部活動との両立 学校行事の活性化	⑭ 部活動や学校行事に積極的に取り組み、健全な人間関係を構築できるよう指導する。 「切替と集中」により限られた時間を有効活用し、常に質の向上を目指すよう指導する。	A	A	A	時間管理をしっかりとって、有意義な高校生活を送ることができる生徒が増えている。
進路指導	可能性への挑戦を支援する 進路指導の推進	⑮ 土曜補習や特別講座、学習合宿等を計画的、系統的、効率的に実施する。	A	A	A	土曜講習や長期休業中の集中講座の形態がほぼ固まり、学習合宿では積極的に学習に取り組む「学習集団」の育成が図れた。 3年生では添削指導など個別指導の充実を図り、最後まで粘り強く努力した。
		⑯ 進路学習や個人面談をととして進路意識の向上に努めるとともに、個別指導を充実させ、可能性への挑戦を支援する。	A			
		⑰ 実力テストへの積極的な参加や事後処理を促し、その結果を生徒自身が意識して活用するよう指導するとともに、進路指導部、学年部、教科が協力して早期対策をとる。	A			
		⑱ 新課程入試に向けた情報提供と対応（→補習体制＋週末・月間・年間自主学習課題の設定等）	B			
	2年後の数値目標値が達成できるよう指導の在り方を模索する。	⑲ 「国公立＋難関私立大学」への進学については、数値目標が早期に達成できるよう努力する。	A	A	国公立大学への進学希望が増加する中、二次試験対策の指導体制を検討する必要がある。	

人権 健康	教育的配慮を要する生徒への支援	⑳ 学校生活に困難を有する生徒への支援については教育相談会議等を中心に組織的に取り組む	A	A	配慮を要する生徒については、教育相談会議などにおいて情報を共有し、丁寧に対応した。 落ち着いた学習環境を作れているものの、校内の美化活動については、指導をより一層徹底したい。 危険箇所修繕等については迅速に対応できているが、備品等の老朽化も進みつつあることから、今後、検討すべき課題がある。
	人権意識の高揚を図る	㉑ 人権学習の内容を充実させ、一人一人が高い人権意識を持つ集団となるよう指導する。	A		
	安心・安全を第一とし、優先順位を明確にして施設・設備の充実を図ると共に、校内美化に努める。	㉒ 安心・安全な学習環境を目指して、危険箇所や衛生面での改善に努める。	B	B	
		㉓ 日頃から、教室の美化、整理整頓について細部にまで注意を払い、「いつ、誰に学校訪問していただいても恥ずかしくない」落ち着いた学習環境を、生徒自らがつくるよう指導する。	B		
㉔ より快適な学校生活が送れるよう、施設設備の充実に努める。	B				
広 報	本校の魅力や求める生徒像等を様々な機会を活用して発信する。より効果的な広報活動を検討する。	㉕ 学校説明会や芸術展、創華祭等の行事を通じて本校生徒及び本校の姿を発信する。 また、新たな情報発信の方法を検討する。	B	B	ホームページやお知らせメールにより情報発信の充実に努めた。 今後、情報発信は、ホームページへの一元化を検討する。
		㉖ ホームページやお知らせメールを一層充実させ、タイムリーに適切に情報を学校内外に提供できるように努める。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>1 開校8年、城南菱創高校の良き「校風」「伝統」の基盤が完成した。今後、一層魅力ある学校作りに邁進してほしい。</p> <p>2 明確な学校経営方針の下、適切な学校運営がなされている。→中学生や保護者、地域の人々からの好評価や大きな期待に繋がっている。</p> <p>3 本校の特色化を推進する高大連携等の取組は充実している。</p> <p>4 進路目標については、新たな数値目標を掲げ、進路指導をさらに充実させてほしい。</p> <p>5 部活動等の課外活動も活発に行われており、地域とも交流も積極的にできている。</p> <p>6 活発な広報活動がなされている。ホームページでの広報活動は積極的に行われており、丁寧な情報発信がなされている。 今後も、学力偏重にならないように、学力向上と自主活動活性化の調和のとれた学校運営に努めてほしい。</p>
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	<p>1 全ての生徒が、本校の目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を達成できるよう、授業を軸とし、個別指導や支援の充実にも努める。</p> <p>2 保護者との連携を図りながら、生徒達の規範意識の高揚・マナーの向上に努めるとともに、生徒達が安全・安心で充実した学校生活を送り、一人一人が良識ある個人として自らを律し、自立できるように指導する。</p> <p>3 中学生及びその保護者が本校をより良く理解し、確かな進路選択ができるよう、親切かつ丁寧に情報提供を行う。 (中学校への定期的な訪問、学校説明会・施設設備の見学会の実施、体験授業・部活動体験等の実施、中学生による学校訪問受入れ、中学校への出前授業の実施、中学校での進路説明会への参加等)</p>
-----------------------	--